

- A) オムライス班では、環境的要因や人的要因だけでなく、身体的要因についても言及しており、音や光を使って身体的なハンデがあっても運転しやすい環境、道路のバリアフリーを作ろうとするところなどが参考になりました。

他にもチーム variety の VR を利用した教育、頭文字 IKT の意識的・知識的要因(意識の欠如・標識が分からない等)に対する交通安全教室の開講やほんまに本間班の個人だけでなく家庭・学校・行政等様々な視点から問題や解決策を出しており非常に参考になりました。

- B) 自分たちのチームでは、問題の原因としてインフラ整備が追い付いていない(白線が消えている。道路・歩道の幅が狭い。等)環境的要因と確認不足、操作の誤り(周囲の注意不足・自己中な運転・ブレーキ、アクセルの踏み間違え・気の緩みによるクリーブ現象。等)人的要因のみを考えていましたが、オムライス班の高齢化率が高く、判断能力が衰えているという身体的・年齢的要因を追加します。また、解決策に関して自分たちのチームでは若者と高齢者の意見交換会と小さい子供に対する間違い探しや○×クイズのみを考えていましたが、チーム variety と頭文字 IKT の VR での教育とほんまに本間班の様々な観点からの解決策を追加します。

これを踏まえて、交通事故の発生原因は単一ではなく、環境的要因・人的要因・身体的(年齢的)要因が複雑に関係し合っていることが分かりました。そのため、事故防止のためには一つの視点だけで対策を考えるのではなく、複数の要因を組み合わせた総合的な取り組みが重要であると考えます。

まず環境的要因については、白線の消失や道路・歩道の幅が狭いといったインフラ整備の遅れが、事故を引き起こす大きな原因の一つであると感じました。これらは運転者や歩行者の注意力だけでは補いきれない問題であり、行政による定期的な点検や整備が必要です。また、オムライス班の発表にあったように、音や光を活用した信号や標識の工夫、段差の解消などのバリアフリーを進めることで、身体的なハンデを持つ人や高齢者にとっても安全な道路環境を整えることができると考えました。

次に人的要因については、確認不足や操作ミス、自己中心的な運転、気の緩みによるクリーブ現象など、運転者一人一人の意識や行動が事故につながっていることが分かりました。これらの問題に対しては、頭文字 IKT のように意識の欠如や交通ルール・標識に関する知識不足を改善するための交通安全教室の開講が有効であると感じました。知識を身につけるだけでなく、実際の事故事例を学ぶことで、危険を自分事として捉えられるようになると考えます。

さらに、身体的・年齢的要因として、高齢化率の上昇に伴い判断能力や反応速度が低

下していることも重要な課題です。この点においては、チーム variety の VR を活用した体験型教育が特に有効だと感じました。VR を使うことで、実際に事故が起こりやすい状況を疑似体験でき、高齢者だけでなく若者や子どもにとっても理解しやすい学習方法になると考えます。

また、ほんまに本間班のように、個人だけでなく家庭・学校・行政など様々な立場から問題を捉え、連携して解決策を考える視点も非常に重要だと感じました。家庭では日常的な声かけやルールの確認、学校では年齢に応じた交通安全教育、行政ではインフラ整備や制度づくりを行うことで、より効果的な事故防止につながると考えます。以上のことから、交通事故を減らすためには、年齢や立場に応じた教育、環境整備、意識改革を組み合わせた多角的な対策が必要であると考えました。今回の発表を通して、他チームの意見を取り入れることの大切さを学ぶとともに、自分たちの考えを広げ、より現実的で効果的な解決策を考えることができました。